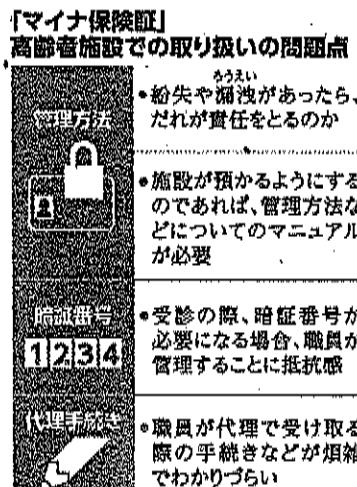


マイナ保険証 困る高齢者施設

紛失責任は「職員負担重い」

マイナンバーカードと健康保険証を一体化させた「マイナ保険証」をめぐり、高齢者施設が対応に苦慮している。認知症の入居者がいるなか、手続きや管理が十分できるのか不安が広がる。行政側はマイナアルの整備など対策を取る組む方針だが、遅れが否もない。▼3面に対処まだ示さぬ

京都市にある特別養護老人ホーム「原谷(はらや)の里」。この施設では医療機関への受診に備え、入居者約100人のほぼ全員の健康保険証を力羊せきの書き出しと保管している。受診の際度は、おもやう日ごとに上り、施設内の生活相談員が付き添つてある。施設長の介山篤さん(45)は、マイナ保険証へ



ある。「従来の健
康保険証を使い続けられ
るよう」としてほしい」と
話す。

一方、東京都墨田区

ある特別養護老人ホーム
「青葉台みくら苑」の施
設長、坂井祐さん(47)は
マイナ保険証の扱いに関する
うにするのであれば、管
理方法などについてのマ
ニアルを示してほしい」と
いって強調する。

基本的には、マイナ保
険証を入居者の家族や成
年後見人に管理してもら
うような仕組みにしてほ
しい、という。ただ、家
族からの管理を依頼される
ことも想定される。「管
理するのは職員の負担が
重く、ストレスにつなが
りかねない」の危惧がある。
この施設では、新型コ

ロナウイルスによるクラ
スター(感染者集団)の
発生を経験している。政
府が感染拡大時の対策と
して施設内療養を重視す
る方針を掲げたが、医療
も、政府は具体的な対応

方法がないことをあた説明し
ていよい。坂井さんは
「現場に丸投げせず、き
ちんと対策を示してほ
い」と語る。(森本都記)